

振興部の

知っとこ！神美

知つておいてほしい神美を紹介します。

【三宅編Ⅲ】

「御所」の地名

な
中嶋の
杜にかがやく
田道間守



「御所」の地名は貴き人の住し所、神功皇后(じんぐうこうごう)の母の生誕の地と言われております。この屋敷跡を御屋敷と言います。御所という地名が示すように、中嶋神社の菫祖の御住所だつただろうと言われております。田道間守命の弟の田道間比多詞(ひたか)と菅竈由良度美(すがかまゆらとみ)との間に出来た子供が神功皇后の母と古事記には書いてあります。

この山の山頂に胞衣(えな)神社があり神功皇后の田の葛褐城高額比売命の胞衣を埋めた所だそうです。神功皇后は新羅・百濟(今の朝鮮の2つの国)遠征して2か国を服属させた神代の女傑です(大阪の住吉大社に祀られております)。西暦390年頃の神話の話です。刀剣・勾玉、素焼土器等がたくさん出土したらしいです。

●御所御靈神社(岸本金次郎氏掛軸より)

御所と言う貴き名前の地も土地荒れ耕作する者も居なくなり、明治6年平尾学治郎在脩神美初代村長(現在の当主から3代前)が御所移住者を奨励し関岡吉左衛門が明治6年4月14日初めて移住し次いで岸本長兵衛が同年11月、岸本市三郎・明治8年3月、西沢耕作・明治9年7月、栗原初太・明治11年12月移住されたようです。

関岡氏最初に移住された日を記念して明治15年8月10日御所御靈神社を建立してこの土地より掘出した兜、土器等を納め祭典を執行し旧暦4月14日(現在の5月13日)を祭日と定め現在に至っているようです。天照皇大神の神號(しんごう)5枚を表装して移住者5名に頒興(ぶんこう)したその掛軸の裏面にこの経緯が書かれております。神號裏書として。また、この詳細は御所沿革誌にありますと書いてあります。

●御所古墳(神美村史より)

御所古墳は三宅字御屋敷にあって11か所の横穴式古墳から出来ており、完全なものはここ1ヶ所だけです。三宅の地は飛鳥時代より“屯倉(みやけ)”と言い天皇直轄領の地名です。この古墳は奈良時代のものでこの地が非常に開けていた事を示しているようです。この古墳に眠っておられた卿戸主(きよこしゅ)の家族が50人と仮定し現存・既存の古墳の数、築営年代の差異を考え、この時代に400人位の人が住んでいたようです。現在の三宅の人数より多数になっています。

ここより出土した刀剣・土器は先の御靈神社に祀られていると書かれていましたが、今は何も入っておりません。三宅という地名は天皇の直轄領で、養父の三宅もそのようです。

神美お宝紹介 冊子より」